

6. 事業内容

ア) アホイでの活動

1. 森林再生活動【3年目】

① 啓発活動：組合員中心に、森林保全の重要性等環境教育を実施。

② 植林並びに維持管理（3年間で500haの水源地再生を行う。）

- 育苗活動（45,000本育苗-在来種20,000本、果樹25,000本）
- 植林地準備（防火帯設置、整地作業）
- 住民（組合メンバー）への林業技術指導
- 植林活動（45,000本、約167ha）
- 維持管理活動（草刈り、補植、施肥、防火帯管理等）

*【予算追加】植林地の維持管理作業経費を予算に加えたため500万円近い予算が追加でかかった。ただ、事業終了後は現地地方政府とOISCA Ajuyが自己資金で管理していく方向で調整が進んでいる。

③ スタディーツアー実施：現地雇用スタッフ、植林Gメンバー等計約10名を対象に、同国内の先行事例地を視察する。（3泊4日×1回）

*【追加活動】スタディーツアーは当初予定に入っていなかったが参加者のインパクトが高いため、3年目も加えた。1年目、対象は、現地雇用スタッフのみだったが、企画に賛同する関連する町の職員、村の要職者も5名自費参加するほどであった。

2. 住民収入向上支援【3年目】

① 持続可能な様々な農業・農産物付加価値向上の研修・普及

- A) ミミズによる堆肥づくり研修 50名×1回
- B) 栽培の多角化研修・推進 レモングラス、生姜等を含むハーブ各種栽培の研修・推進等、50名×1回
- C) 食品加工・マーケティング研修 50名×1回

② アヒル飼育・卵加工（マスコビーダック含む）

- A) 組織化（組合づくり 65名）
- B) 研修実施（飼育、卵加工 65名×2回実施）、巡回指導
- C) 飼育施設支援（24施設）

*【追加活動】フィリピンでは孵卵器稼働に要する電気代が高いのが課題であったが、事業の持続可能性を考え、3年目に新たに通常種に加え、自ら卵を孵化させることができ、病気の耐性も高いマスコビーダック種を加えることにしたい。

③ 養蜂

- A) 研修実施（ハチの飼育、蜂蜜づくり 50名×2回実施）、巡回指導
- B) 飼育施設支援 — 3コロニー
- C) 蜂蜜の出荷、販売先開拓支援
- D) スタディーツアー

*【追加活動】収穫量が当初予定より下回っていたが、技術的な課題があると思われるため、課題改善・生産性向上を図るため、ルソン島のフィリピン大学農学部の養蜂研究者の指導を仰ぐため、研修ツアーを実施したい。

*【養鶏は終了】

2年目実施の養鶏支援については、3年目は行わない予定。理由として、2年目の活動で、受益農家が養鶏を続ける仕組みを作れたため。基本的に、ウィークデイ（月～木）に収穫した卵は組合家族の子供たちに配布し栄養改善に、ウィークエンド（金～日）は販売し組合の収益に充てる計画。

- ④ アンテナショップ (Display Center) 建設・運営
同事業で作られる生産物・食製品等を始めとした、この地での産物を販売する「道の駅」的なコンセプトの販売店を建設。建設後は地方政府・組合が主体となり運営していく。

* 【内容変更】NGO 連携無償資金事業での支出額は当初予定と変わらず 50 万ペソを予算としているが、主旨に賛同した地方政府 (Ajuy Municipality) が 150 万ペソを集め、総予算 200 万ペソで、日本の道の駅のようなコンセプトの農産物等の販売センターを、街道沿いに建設することを提案。同事業としても地方政府が活動の主旨を理解し、引き継いでくれることは持続可能性の観点からも望ましく、地方政府の協力を得て、建設したい。

3. 発信活動【3 年目】

裨益者だけでなく周辺住民や関連行政も集めてオープンな活動報告会を開催する (1 回 x 120 名)。報告会を通して、これまで参加していなかった対象地域住民の新たな参加を促す。また、周辺村の住民や行政が活動を模倣し実践してもらえるような普及・促進の機会にもする。更には、活動の改良・改善を図る上で有効な、事業を実施する過程で得た新たなニーズや課題の吸い上げについても、この機会に行う。

(イ) レイタータクロバン／タナウアン／パロ／トロサでの活動

1. 海岸林再生活動【3 年目】

- ① 啓発活動：住民特に植林グループ、更には学生・児童にも対象を広げ、海岸林保全の重要性についての環境教育を実施。対象村 5 村 50 名 x 7 回／年
- ② 植林並びに維持管理 (3 年間で 20ha の海岸林再生を行う。)
- 植林グループへの林業技術指導
 - 植林活動 (57,000 本/約 6.7ha 3 年目 本数は補植数含む)
 - 維持管理活動 (保育、補植、漂流物の除去等)
 - * 「海岸林」とは、マングローブ林 (約 75%) 並びに海岸砂浜の防風沿岸林 (約 25%) を指し、両方の植林を行う。
 - * 啓発効果を狙い、植林には 1 回 150 名 x 6 回 = 900 名の住民・学生・子供の参加を得て実施。
- ③ スタディーツアー実施：現地雇用スタッフ、植林 G メンバー等計約 10 名を対象に、同国内の先行事例地を視察する。(3 泊 4 日 x 1 回)
- * 【追加活動】スタディーツアーは当初予定に入っていなかったが参加者のインパクトが高いため、3 年目も加えた。レイテでは過去マングローブ植林に成功したことがなかったが、1 年目のツアーで、成功事例を視察することで、参加者に大きな自信と展望を持たせることができた。

2. 住民収入向上支援【3 年目】

- ① 持続可能な農業・産物加工の紹介・研修
- A) モデルファーム実践
- 有機農業の実践・指導実施。対象者：組合員・家族 (長期研修生 8 名 x 5 カ月間 x 2 回、短期研修生 1 週間 x 10 名 x 5 回)
- なお、技術指導に関しては、フィリピン人の専門家 (NGO-OTTA 所属) を常時滞在させ、日常的な技術指導を行う。これに加えて、日本からの有機農業指導の専門家 (年 2 回、1 回 5 日程度) を招聘予し、フィ

	<p>リピン人専門家では不足する部分を補う。</p> <p>3. 発信活動【3年目】 裨益者だけでなく周辺住民や関連行政も集めてオープンな活動報告会を開催する（1回×100名）。 報告会を通して新たな参加者の発掘を試みる。また、周辺村の住民や行政が活動を模倣し実践してもらえるような普及・促進の機会にもする。更には、活動の改良・改善を図る上で有効な、事業を実施する過程で得た新たなニーズや課題の吸い上げについても、この機会行う。</p> <p>本プロジェクト「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標該当ゴール</p> <p>目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる 細分化ターゲット：1.5</p> <p>目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する 細分化ターゲット：2.1、2.4</p> <p>目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する 細分化ターゲット：15.1 15.2 15.4</p>
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>平成 28 年 9 月 15 日（中間報告時点）で以下のような成果・課題等がある。</p> <p>（ア）これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） アホイの森林再生活動－3年間目標総面積 500ha のうち約 267ha の面積において植林を実施できた。 レイテでの海岸林再生活動－3年間目標総面積 20ha のうち約 9.9ha の面積において植林を実施できた。 住民収入向上支援（アホイ、レイテ）－導入・支援の進捗に多少のばらつきはあるものの、概ね新たな活動が導入され、受け入れられつつある。</p> <p>（イ）これまでの事業を通じた課題・問題点 アホイで在来種の種の入手が限られている。レイテの沿岸防風林（Talisay）の植林は条件の悪い砂地での植林のため故損する苗が多い。レイテのマングローブではフジツボの吸着や浮遊物が絡まるなどして成長の阻害がみられる。 レイテのモデルファームの事業終了後の持続可能性を確保する必要がある。アホイの養蜂活動の生産性が当初想定したレベルに至っていない。</p> <p>（ウ）上記②に対する今後の対応策 アホイでは在来種だけでなく、住民への裨益が大きいカカオやコーヒーなど換金作物ともなる樹種の植林を多めに配分するように対応している。 沿岸防風林（Talisay）については、保水剤・維持管理作業者を雇用する等して生存率を高めていきたい。レイテのマングローブ被害は、住民が手作業でフジツボや浮遊物を除去していく。 レイテ・モデルファーム：事業終了後もファームを当初の目的で運営できる人物を探し、今後1年間で集中的に運営手法を伝授していきたい。 アホイの養蜂に関しては、養蜂の権威に指導を仰ぐための研修ツアーを実施したい。</p>

	<p>(エ)「持続可能な開発目標 (SDGs)」の該当目標の視点からも言及してください。</p> <p>⇒台風に強い植生を再生することで、減災だけでなく、目標 15 に言及されているような陸域生態系の回復と持続可能性を高めることに寄与すると思われる。また、住民が自然と共存しながら収入を得る道を提供することで、貧困削減、食料安全保障・栄養改善に寄与する。</p>
<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(ア) アホイ：水源林再生対象地-計 500ha の (3 年目) 90%が適切に維持管理される。 * 環境天然資源省担当官の監査 (本数カウント) で確認 @水源林が適切に管理されることによる受益者は少なくとも家を破壊・破損された被災民の約半数の約 2 万 1 千名に及ぶことが期待される。</p> <p>(イ) レイテータナウアン・パロ・タクロバン・トロサ ：海岸林再生対象地-計 20ha の (3 年目) 植林区域 20ha の生存率 50%以上 * 環境天然資源省担当官の監査 (本数カウント、面積測定) で確認 @海岸林が生育し適切に管理されていくことによる受益者は少なくとも海岸林に面する沿岸住民約 2 千 1 百名におよぶ。</p> <p>* 上記 (ア) (イ) は、SDGs 目標 15 の達成に直接的に寄与する。</p> <p>(ウ) 住民収入向上支援—持続可能な農業推進 (アホイ、タナウアン/パロ) : 対象者の農業収入が、開始前の年と比較して、(3 年目) 70%以上増加する。 他の住民収入向上支援活動は、3 年目に組合としての収入がそれぞれ 1 万ペソ以上になる。 * 上記活動は、SDGs 目標 1、2 の達成に寄与する。</p> <p>(エ) 発信活動 (アホイ、レイテ各地) : 報告会 2 か所での合計参加者数が 250 名以上にのぼる。</p>